

ごあいさつ



芳川豊史教授

皆さん、こんにちは。

2019年9月1日に、名古屋大学呼吸器外科チームを預らせていただいてから、丸5年がたち、本日より6年目に入りました。これまで大きな問題もなく、チーム運営ができておりますのも、我々を支えてくださる皆様のおかげと感謝しております。

さて、名古屋大学呼吸器外科の使命は、臨床、教育、研究の3本柱です。我々は、東海・中部地方の核となる名古屋大学、そして名古屋大学医学部附属病院として、高いレベルで、かつ、バランスよく、この3つの使命を全うできるように、日々励んでおります。

それでは、恒例に従い、現況報告をさせていただきます。

名大病院呼吸器外科の手術数は、毎年増加しておりましたが、手術枠の制限から、現状がほぼ最大かと思われます。本年も、月に約40例弱のペースで手術を行っており、8月末で308例の全身麻酔手術数でした。原発性肺癌の症例数は年間300例強、内視鏡手術の割合が約8割という状況には変わりなさそうです。胸腔鏡手術(VATS)を軸に低侵襲手術を行っておりますが、当科の売りであるロボット手術(RATS)については、現時点で、157例(肺手術130例、縦隔手術27例)と、月20例弱のペースであり、本年は昨年の182例を大きく越えそうです(235例の予測)。

手術においては、低侵襲な内視鏡手術(VATSやRATS)での対応を常に考えますが、根治性や安全性を第一に、適宜、通常の開胸手術でのアプローチも行っております。胸壁合併切除、気管支形成、血管形成などの拡大手術も多く、同門である心臓外科教室との連携を武器に、縦隔腫瘍や肺癌の手術を安全に行っております。さらに、耳鼻科、整形外科、腹部外科などの様々な診療科との共同手術も増えてきました。

また、肺移植実施施設に認定されてから1年半が過ぎ、脳死肺移植の待機患者数も15名を越えました。肺移植のシミュレーションも定期的に行っており、いつでも対応できる体制を整えております。

教育面では、外科医離れが進む流れの中で、関連病院と一体となって、研修医および学生の教育や勧誘を進めております。その一部は、教室のホームページ

(<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kokyuukigeka/>)でも公開しております。この5年間で、30名を越える医局員を新たに迎えることができましたが、名古屋大学は、中部地区に多くの関連病院を有しており、未だ呼吸器外科医が不足しております。今後も、継続して仲間を増やしていきたいと思っております。

研究面では、大学の使命として、科学研究費やAMEDなどの競争的資金に積極的に応募しております。現在、数本の科研費(B、C、若手)を獲得し、日常臨床の合間を縫って研究を進めております。エクソソームなどに着眼した分子生物学的な研究だけでなく、実臨床に近い、変形シミュレーションなどの外科手技に関係する研究や、腸呼吸などの夢を追いかけたほほえましい研究も行

っております([研究について 2024 年 6 月](#) | [研究について](#) | [呼吸器外科について](#) | [名古屋大学大学院 医学系研究科 呼吸器外科学 \(nagoya-u.ac.jp\)](#))。

最後になりましたが、これからも、名古屋大学呼吸器外科を中心として、20 を超える関連病院の同門一同が力を合わせて、より良い呼吸器外科医療を確立すべく、日々努力していきたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。